

やま だ かず よ
山田 和代さん(44歳)

営農地:柳川市三橋町
主な農産物:水稲、麦、大豆、レタス、
スイートコーン、オクラ、その他露地野菜



自分で考え工夫できる農業は楽しい

● 就農のきっかけ

子供の頃から触れていた農業

実家は兼業農家で、子供の頃は手伝いで農作業に触れていた山田さん。農業の大変さとともに、収穫の喜びも感じていたそうです。高校は農業高校に進み、その後、就職した農機メーカーにて夫と知り合い20歳で結婚。当時、夫の家は現在と変わらない水稲、麦、大豆、レタス等の農業をしており、子育ての傍ら、出来る範囲で農作業のお手伝いをされていました。

● 私の今～就農後の道のり～

義母の「記録ノート」が教科書に

3番目のお子さんが小学校へ通い始めた頃から本格的に農業に携わろうとしていた時、お義母さんが亡くなり、「今からいろいろ教えていただこうと思っていましたが、教わるどころか、お義父さんの片腕として、目まぐるしい毎日でした。」とのこと。

そんな中、山田さんを支えたのはお義母さんが残してくれた「記録ノート」でした。このノートには、レタスの品種ごとに特徴や栽培方法、注意点などが書かれており、品種数が多いレタスを栽培する上でとても役立つそうです。

「このノートは私の教科書でした。いつも読んで勉強していました。」と、ノートを片手にお義父さんからも教わりながらレタス作りを続けました。

年数を重ねるうちに、初めはお義父さんに指示されながらの作業が、次第に自分で栽培計画や作業計画を立てるようになり、今では山田さんがお義父さんや夫に作業をお願いするようになったとのこと。

「自分で考え、いろいろ工夫するのは楽しいが、その分、責任があります。」と、数年前には病気で全滅に近い状況になったこともあり、失敗や成功を繰り返しながら、今ではレタスを中心に野菜全般を任されている山田さんの責任感が伺えます。

また、地元の女性農業者グループ「まかせな菜・みつはし」での活動がとても楽しいと言われます。このグループは平成13年に設立され、地元の米・大豆を使った味噌作り、遊休地を利用した農業体験(サツマイモ収穫など)受入れ、各種イベントでの味噌や野菜販売などの活動を行っています。「農業の素晴らしさ、大切さ」を地元の女性達と一緒に発信しています。

● これからの夢、目標

加工部門へのチャレンジ

山田さんは平成20年度から福岡県女性農村アドバイザーとして活躍している一方、現在、JAレタス部会や地元直売所、前述の「まかせな菜・みつはし」の役員を務めています。

「農作業は忙しいですが、家に閉じこもってはいけません。外に出れば、多くの人と出会うことができ、たくさんの情報が得られます。」と常に外部にアンテナを立てています。

そんな山田さんのこれからの目標は、農業機械の操作と加工部門へのチャレンジです。現在、トラクターなどの農業機械はお義父さんや夫にお願いしており、「自分で作業計画を立てるようになると、やはり自分で操作したくなります。」と、免許取得に意欲を持っています。また、出荷できない、でも味は変わらない野菜達をどうにか加工で付加価値をつけられないかと常に考えているとのこと。将来は、小さくても良いので自宅に加工場を設け、お菓子や惣菜、漬物などにチャレンジしたいと、生産から加工までの6次産業化を目指しています。



プロフィール

■ 家族構成 / 本人、夫、義父、子3人

■ 営農年数 / 約14年

■ 耕作(経営)面積 / 3.2ha

■ 販路 / JA 共販、直売所、宅配

就農を考えている女性へ

農業は大変ですが、自分で考え工夫ができ、収穫の喜びは格別です。愛情をかけて育てるあたりはまさに子育てと同じです。農業に携わる女性が増えるよう、私も積極的に情報発信したいと思います。